

米中関係、デジタル化で高まる日EU協力への期待

ーウィッターカー・オックスフォード大学教授のオンライン講演会開催ー

2020年12月18日

講師：ヒュー・ウィッターカー オックスフォード大学教授
日産日本問題研究所長



経済広報センターは2020年12月18日、オックスフォード大学教授で日産日本問題研究所長のヒュー・ウィッターカー氏を招き、「複雑化する国際情勢における日欧協力の可能性」をテーマにオンライン会合を開催した。会員企業などから約50名が参加した。

ウィッターカー氏は、この2年ほどで中国が、ギリシャやイタリアといった経済の弱いEU加盟国に接近し「一帯一路」を拡大させようとしてきたと指摘。加えて、新型コロナウイルスの発生とその後の対応や、ウイグル、香港における人権侵害などにより、EUは中国への懸念を高めていると述べた。

他方、米国との関係では、米中対立において米国に共感するものの、トランプ政権が反EU・反NATOの姿勢を鮮明にしてきたため、米国の手駒になることは望まないとした。そのうえで、バイデン新政権後も米国内の分断は解消されず、安定的なパートナーにはならないため、EUは引き続き「節度やバランスの重視」という共通の価値観を持つ日本との関係を重視していくとの見方を示した。

さらに、デジタル分野を例に挙げ、EUは「情報を統制管理する中国」や「GAFAの情報利用を許す米国」ではなく、「Society 5.0を基盤としてESGやSDGsを意識した枠組みづくりを志向する日本」と価値観を共有しているとして、両者の協力を期待を寄せた。特に、喫緊の課題であるサイバーセキュリティの強化やデジタル化がもたらす社会的分断の解消について、速やかな対応を求めた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。